

2024（令和6）年度 実践FS最終報告書

実践FS研究課題名	（和文）アートプロジェクトにおける逸脱の創造プロセスを活用したエリアキャパシティ向上の実証的研究
	（英文） Empirical research on improving area capabilities using the creative process of deviation in art projects
実践FS責任者 （所属・職名・氏名）	東京藝術大学美術学部絵画科 教授・副学長 中村 政人
所属プログラム	地球人間システムの共創プログラム（谷口 真人 プログラムディレクター）
研究期間	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日

本報告書はFSの研究成果として地球研ホームページに掲載します。

1 研究概要

本FSの研究概要について記載してください。

人類史においてアートの歴史は、どの地域においても消えることなく継続してきている。何故、なくなることなく生まれ継承されてきているのか？何故、人は表現し、生きる事とつくる事が一体化するような個性的な人々が世界中に存在するのか？そもそも、何故、想像し創造する事を我々、人類はおこなうのか？この大きな命題を前提に本研究の視座を設計し実践してきています。様々な立場、状況においてのこの創造のプロセスを解明し、社会的処方としてのアートプロジェクトを地域社会で実践し続ける事で、本研究の概念、理論化を目指しています。現在、その理論のフレームを形成するために構成要素とその因果関係を一つ一つの実践から導き出すための上位フレームをつくり出しある程度の規模でのコミュニティを対象にしています。具体的には、「国際芸術祭東京ビエンナーレ」「千葉国際芸術祭」「スローアートセンター名古屋」「馬喰町アートセンター構想」などです。個々のアートプロジェクト活動を集約し、意識変容、行動変容がいかに社会変容するかをまとめる社会実験の場といえます。その対象エリアでの価値館の変容＝逸脱がいかに創造的な活動によって起こり続けるのか？その活動の連鎖がいかに起こるのか？つまり「逸脱の創造プロセス」の理論的解明を目指しています。

2 実践FSで得られた成果

実践FS期間中の研究成果（手法の開発や組織の形成を含む）を具体的に記載してください。また、成果物があれば具体的に示してください。当初予定していた目標の達成の成否とその理由を述べてください。

最終研究の出し口のイメージは、アートプロジェクトがより一般化していく事に比例して深まっていく事とおもいます。医薬品の研究は、薬の効果が広く一般化しそれまでに直らなかった病気を治療することだとすると本研究も同様な社会処方としての効果を一般化することといえます。アートという世界でなく極普通の社会環境において機能するよう概念と理論を普及しやすい状態にすることも必要かと思います。

現状は、多くの実証事例をアーティストと共同研究としてアーカイブしアートプロジェクトの効能データを採取していく前段

階といえます。

具体的には、千葉国際芸術祭、東京ビエンナーレの総合ディレクション、プロデュース及び企画制作において本研究の目的、手法を取り入れてアートプロジェクトの社会的、文化的処方 の 効能を研究しています。

多くのプロジェクトの成功リスト・データベースをつくりそこから「逸脱の創造プロセス」の理論的構築と概念化を深めて行く計画です。課題として評価に関する方法論は、まだまだ不十分な段階であり具体的な評価指標を実践しながら検証し手法の確立が必要と考えます。

3 実践FS期間中の業績

最新から過去まで順番に通し番号を記入し、FS 責任者には二重下線、FS メンバーに一重下線を付け、査読の有無を記載してください。

「書籍等出版物」、「論文」、「MISC」、「講演・口頭発表等」、「Works(作品等)」、「メディア報道」、「受賞」を主として記載することとし、その他本共同研究の運営に貢献すると推定される共同研究や社会での実践的な取り組みの成果は「その他」に記載してください。

○千葉国際芸術祭 2025

https://www.city.chiba.jp/shimin/seikatsubunka/bunka/documents/7zikkei_1.pdf

○東京ビエンナーレ 2025

<https://tokyobiennale.jp>

○スローアートセンター名古屋

<https://sac.nagoya>

○東京藝術大学 芸術未来研究場 アート×ビジネス領域

東京藝大において新たな研究領域を立ち上げました。アートの社会実践を研究、教育し事業化する事を目的としています。

<https://artbusiness.geidai.ac.jp>

●その他（上記以外の主要業績がある場合は、ここに記載してください。）

千葉国際芸術祭 2025 プレ企画一覧

① わたしの千葉市！テーマパークの模型を作ろう！ アーティスト：栗原良彰

2024 年 2 月、8 月、10 月（計 10 回開催）千葉市内アフタースクール 7ヶ所、千葉市美術館、きぼーる、市役所
 【活動概要】「千葉市」をテーマにしたテーマパークがあったら、どんなものになるだろう？自分しか知らないポイントなどを集めて自分だけの「千葉市をテーマにしたテーマパーク」を考えてみよう！を課題として、栗原氏が用意した建築模型と同じ素材を使用したパーツを用いてオリジナルの模型を制作するワークショップ。本会期では栗原氏が実物大の模型を作り、その中に子どもたちの作品 200 点を一緒に展示することを目標としている。（現在 121 個）

**【スタッフ所見】**

アフタースクールという千葉市独自のシステムにこのワークショップがとても親和性が高く、低学年を中心とした年齢層や 2〜3 時間じっくりと向き合える環境が子どもたちの創造性を掻き立て。どの回もオリジナリティあふれる作品が生まれた。体験した子どもたちは千葉市のことやまちについて考えを深め、次も機会があったらやってみたいという感想が数多く寄せられた。今後は商業施設や大人向けも対象に加えてプロのアーティストから新たな知覚をうけ創造意識を高める活動する場を広げていく。

【アンケート結果】

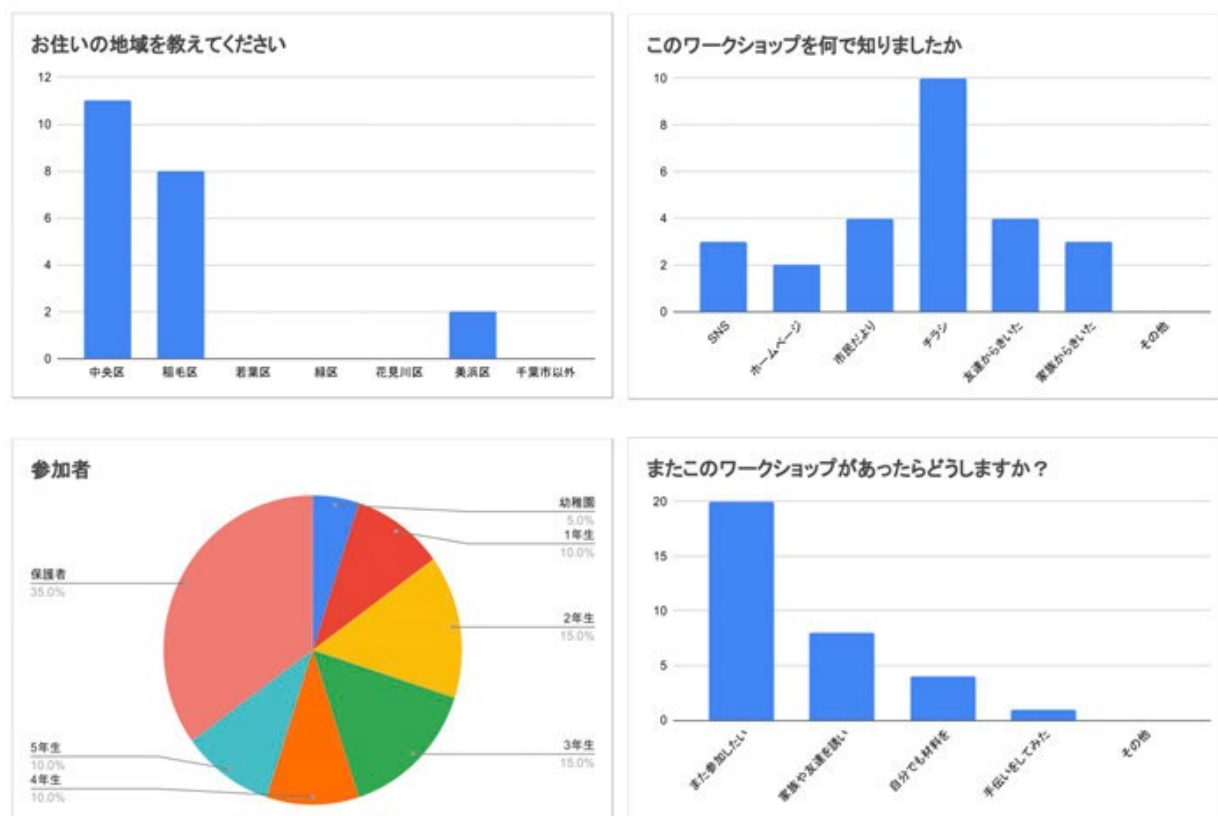
●今日の感想を教えてください ※文章は原文のママ

- ・もっと時間があるととってもいいものがつくれる気がしました。・じょうずにできました。たのしかった。ありがとうございました。
- ・はっぱうすちろうるをきったりはったりしてかたちをつくれたからたのしかった。・いろいろくっつけたりして楽しかった。
- ・先生たちが親切でよかった。・みんなで一つの作品を作ったら楽しそうと思います。・もっと時間が欲しい・いいのができてよかった

<保護者>

- ・子供たちが創造力を働かせて、夢中にやっている姿が嬉しかったです。あつという間の時間でもっとやりたかったです。とても楽しい時間をどうもありがとうございました!!・もっともっとやりたかった！おうちでもやりたい。ドクターさんがお家に来て一緒に作れたらいいなあ、と思いました。・親だけでは力不足でできない、アドバイスやアイデアがいっぱいでとても楽しくいい刺激になりました。ありがとうございました。・ドラマなどで模型づくりの様子を見たことがありました。実際にどんな風に行っているのかを知ることができてとても興味深く楽しかったです。参加して良かったです。・子供が自由に作ることができて良かった。・子供が集中できて、まわりのスタッフのてつだいで完成できて、良かったです。・大きなパーツで大きなものを作るのも楽しそうだなと思いました。テーマを自分で決めても楽しいかも？と思いました。

アンケート結果 *取得数 21（こども：13 /保護者：8）



② かえっこバザール in 花見川団地 アーティスト：藤 浩志

2024年3月9日（土）10:00-15:00、花見川団地商店街

11月9日（土）10:00-14:00 花見川団地商店街「団地テーブル」

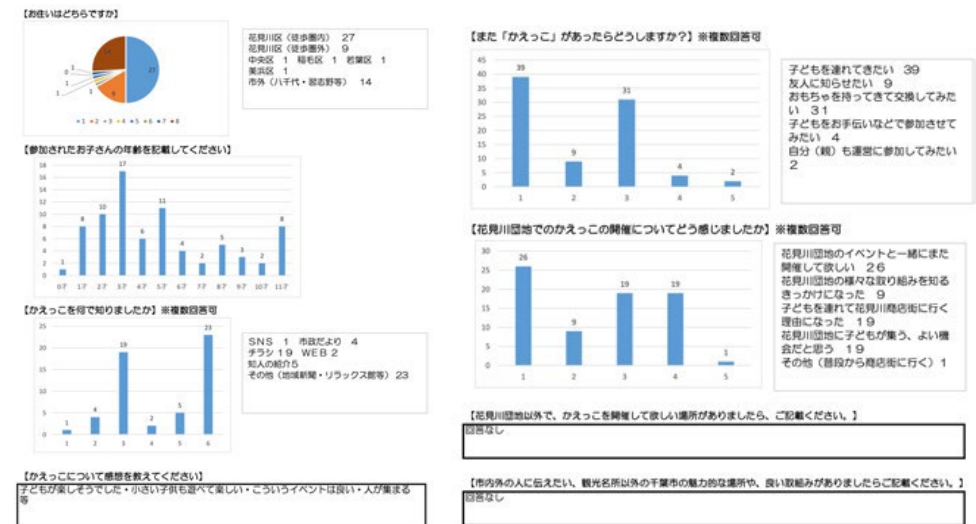
【活動概要】「かえっこ」はこどもたちが主体となって地域に活動の場をつくるアートプロジェクト。こども通貨「カエルポイント」を使って、活動とこどもたちをつなぐのがかえっこである。遊ばなくなったおもちゃをカエルポイントに交換したり、そのポイントでおもちゃを持って帰ることもできる。おもちゃを持っていなくてもワークショップやお手伝いに参加することでポイントをもらえ、こどもたちが自発的に活動や体験をする「遊びの場」を作り出す仕組み。



【スタッフ所見】

花見川団地では初めての開催であったため、参加者がそのルールをまず理解できるのか心配されたが、かえっこ自体がとてもシンプルな仕組みのため小さな子どもでもすぐに楽しんでいる様子が多数見受けられた。また当日は考案者であるアーティストの藤 浩志氏が立ち会っていたため、オークションも急遽行い、それまでの限られた時間内にポイント貯めた子どもたちが大きな声で参加している様子は微笑ましく、印象的であった。

【アンケート結果】



③ かえっこバザール in そごう千葉店 アーティスト：藤 容子（かえっこ管理者）

2024 年 10月6日（日）12:00-14:00

そごう千葉店地階センシティガーデン

【活動概要】

千葉の玄関口である駅に隣接するそごう千葉店で開催される千葉大環境 ISO 学生委員会による「こどもエコまつり」に合わせて実施し、学生が行うワークショップと連携したかえっこを開催。また今回は初めての場所ではあるが、カエルスタッフを募集し、事前説明会や当日運営することもワークショップのひとつと位置付けている。この度はかえっこで集まったおもちゃで制作した作品も展示し、芸術祭の一環であることをアピールした。



【効果・成果】

カエルスタッフの成長は目を見張るものがあった。説明会に参加していない人でも簡単な説明をした後、持ち場に入ると子ども同士で積極的に交流し、短時間ですっかりベテラン店員となる。張り切って働く姿は頼もしくもあり、かえっこの本質であると感じた。また「次はいつこの場所でやりますか？」と何人もの人に聞かれたということは、次も必ず参加したいという意志であり、この場で人々の意識変容・行動変容が起きているということである。

④ Slow Art Collective Chiba アーティスト スローアートコレクティブ

2024 年 3月27日（水）～4月7日（日） 各日10:00-19:30

センシティ 1 階南北通路（そごう千葉店 1 階センシティタワー口前）

【活動概要】

オーストラリア在住の 2 人が主宰するアートコレクティブ。環境に負荷の少ない素材を用いて、観客とともに制作していくアートを展開。近隣で働く方やショッピングに訪れた方など、大人から子どもまで誰でも参加者の手で、紐や素材を自由に編み込んでいくことで、大規模なインスタレーション作品を制作。コミュニティ、環境、自然、街、素材とのコラボレーションを大切にして、それがゆっくと社会に浸透し成長していくようなアート活動となった。



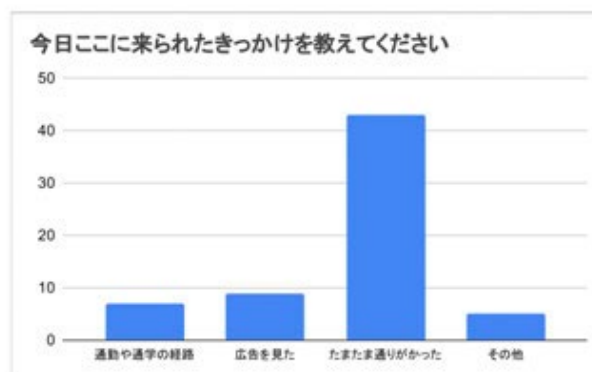
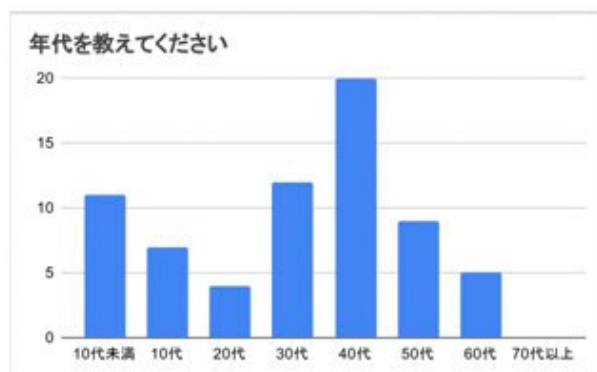
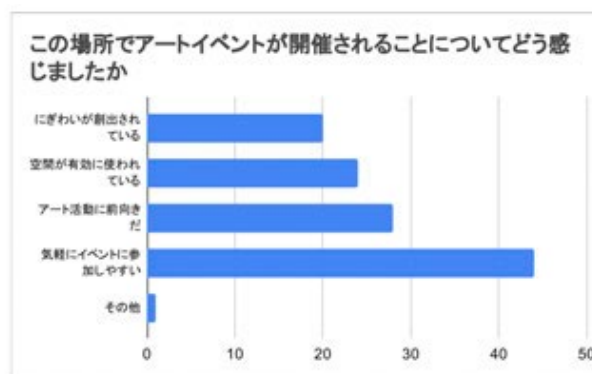
【スタッフ所見】

普段は通路として利用している場の風景が、アーティストのアートプロジェクトで日々変容していく様を目の当たりにし、通りがかりや空いた時間に足を止め、スタッフの誘導も相まって、幼児から高齢者まで気軽に参加できる本プロジェクトは、「アート」へのハードルを下げる意味でも効果が高いと思われる。会場では、スタッフと参加者の交流が生まれ、2 週間の会期中でリピーターや自宅に眠っている帯締めや紐の提供してくれる参加者が現れたことも評価できる。

【アンケート結果】

●欄外に書かれた感想（参加者の自発的な記載）

・めっちゃ参加するの楽しくてめっちゃいいです！！ ・3.4 年過ごしているけど、ここで、イベントが開催されているのはあまり見ない。12月のクリスマスの時期にツリーがあるくらいのイメージ。 ・楽しかったよありがとうございました ・色々紐があって楽しかった。 ・ただ見るだけでなく、参加することで楽しめる ・とても楽しかったしキレイだったです
 ・子供が楽しそうに見て、触っていて良い時間となりました。ありがとうございます。 ・子供が楽しみながらアートに触れることができて良かったです。 ・年齢に関係なく楽しめてよい ・「自由」をためらわず現せてシンプルにたのしかったです。私も参加者のひとりということで光栄におもいます。 ・おもしろかったです。色々な結び方があって、どう在ってもいいんだなと思いました。 ・世の中がこうだったら（どう在ってもよい） いいのになと思います。



⑤ ラウンドテーブル 02「ちくわ部はじめます！」

2024 年 10月26日（土）16:00-18:00 アーツうなぎ 2 階

参加予定アーティスト（高嶺 格、沼田 侑香）中村政人、彦根延代、地域リーダーズ、

事前申込された観客（定員 20 名）

【活動概要】

芸術祭ってそもそも何でしょうか？ それぞれがイメージする「芸術」って、「祭」ってなんでしょうか？「ちくわ部（ちばしで／くわでて／わになって話す部）」を立ち上げることにしました。発起人は「千葉国際芸術祭 2025」の企画運営に関わる千葉市在住メンバー。「ちくわ部」は、所属や肩書にかかわらず、千葉市にゆかりのある人が芸術祭を“口実”に出会ったり、話し合ったりするための対話型のワークショップイベントです。



【スタッフ所見】

正解や結論はなくていい、みんなで考えてみるのが大切というスタンスで始まったラウンドテーブル。誰かの話を聞くだけというものではなくて、全員参加というスタイルが本芸術祭のポリシーを体現している。その分、参加者同士の垣根がなくなり、最後には秋田出身の中村ディレクター手作り、名物「きりたんぼ鍋」が振る舞われ、一気に距離が縮まり一体感が形成された夜となった。

国際芸術祭 東京ビエンナーレ 2025 プレアクション

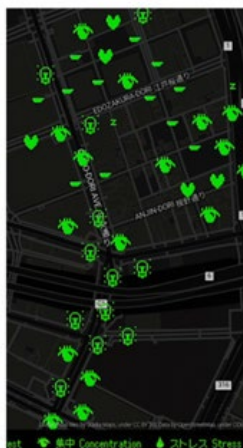
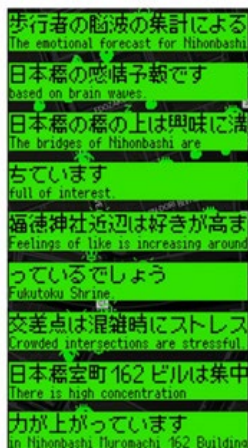
プレアクションとして 11 本のワークショップ、展覧会を企画制作する。

○「もし都市が 1 人の人間だとしたら」並河進

目的：さまざまなバイタルデータの集計から、都市の健康状態を可視化することを目指す。

（企画協力：東京藝術大学 芸術未来研究場 アート&ビジネス領域）

活動：日本橋エリアにて、20 人の参加者が脳波計を頭部に取り付けて、散歩を実施。位置情報と脳波のデータの集計から、日本橋のさまざまなエリアでの感情の傾向を分析し、「日本橋の感情予報」映像を作成。日本橋江戸桜通り地下歩道にて、11/4～9 まで展示を行う。



脳波から下記の 5 つの感情を読み取り、可視化。

【興味度】

心が動いている状態
関心を持っている状態
もっと知りたい！と思う状態

【好き度】

好きいと思っている状態
幸せな状態・嬉しい状態

【集中度】

行動に集中している状態
引き込まれている状態

【ストレス度】

刺激を感じている状態
ストレスを感じている状態

【沈静度】

落ち着いている状態

○日本トイレ研究所「トイレに、愛を。」キャンペーン アーティスト 並河進（参考プロジェクト）

目的：トイレットペーパーや水の使用量を減らすことによるCO2削減と、トイレの使用マナーの改善を目指す。活動：新宿高島屋をはじめ、東京都内、数カ所の商業施設の協力とともに実施。トイレ個室に、トイレの詩を張り出した。（2008年12月～）同時に、トイレットペーパーの使用量も調査し、効果を測定し、効果を確認した。※環境再生保全機構地球環境基金の助成金を受けて活動。

ソーシャルデザインのポイント：美しい詩を掲げることで、公衆トイレ＝「汚い場所」から「美しい場所」への意識変容を行なった。

結果：期間中、トイレットペーパーの使用量が約20.9%削減。



スローアートセンター名古屋

開館して依頼約50本のワークショップ、イベント、展覧会等が企画制作された。

○Vine Painting Project アーティスト 日比野克彦

活動日時：2024年5月29日（水）16:30-17:30、7月13日（土）9:30-10:30、
8月2日（金）9:30-10:30、13:30-15:00

場所：SLOW ART CENTER NAGOYA 北側壁面

活動概要：Vine Painting Project（バインペインティングプロジェクト）とは？

SLOW ART CENTER NAGOYA（スローアートセンター名古屋）の白い壁をキャンバスに空に向かって伸びる線を描く壁画プロジェクト。朝顔が蔓（Vine）を伸ばすように、屋上から垂らしたロープや筆を使って工夫しながら描いていく。人間と朝顔、どちらが先に屋上に到着するか？描く道具、描き方を工夫し独自の表現を開発するようにワークショップ形式で壁画を制作する。

活動概要：Vine Painting Project（バインペインティングプロジェクト）とは？

SLOW ART CENTER NAGOYA（スローアートセンター名古屋）の白い壁をキャンバスに空に向かって伸びる線を描く壁画プロジェクト。朝

顔が蔓（Vine）を伸ばすように、屋上から垂らしたロープや筆を使って工夫しながら描いていく。人間と朝顔、どちらが先に屋上に到着する

か？描く道具、描き方を工夫し独自の表現を開発するようにワークショップ形式で壁画を制作する。



○明後日朝顔プロジェクト アーティスト日比野克彦

活動日時 2024 年 5 月 29 日（水） 16:30-17:30

場所 SLOW ART CENTER NAGOYA 芝生広場

○活動概要

日比野克彦さんが 2003 年の大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレにてスタートさせた'あしたのその次'を思い描く「明後日新聞社文化事業部」。その一環としてスタートしたプロジェクト型作品です。新潟県十日町市筋平の集落の住民たちと共にとして育てられた朝顔は、その後、朝顔の種は全国へと運ばれ、2023 年には日本全国 27 か所に広がりました。朝顔の生命力がコミュニティを緩やかに形成し、人と人、人と地域、地域と地域とが繋がる大きなネットワークの橋渡しとなっている。



○感情を共有する実験室 “baked emotions”展 アーティスト野間陽代里

活動日時:2024 年 6月29日（金）～7月13日（土） 10:00-21:00

場所：SLOW ART CENTER NAGOYA 2F SLOW ART LAB

主催・企画:名古屋芸術大学 メディアコミュニケーションデザインコース 臼井拓朗

活動概要：

「気持ち味わう焼き菓子を作ろう」

分類された“感情”（怒りや喜びなど）ごとに食材を割り当て、参加者のエピソードから食材を計量・調理し、出来上がった焼き菓子を互いに味わうことで、緩やかなコミュニケーションが生まれるワークショップです。作成したレシピをお持ち帰りいただけます。

